令和 4 年度重点目標・具体目標の評価

※ 評価の欄は、A, B, C の 3 段階で評価する。

A：目標を超える成果があった。

B：目標を達成した。

C：目標を達成することができなかった。

重点目標	具体目標	担当	評価
1 個々の実態に応じた教育支援の追求	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき、より実態に応じた適切な指導を行うために、指導計画等の作成や見直し、改善を行う。 	学習	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部と連携し生活単元学習の内容について、学習指導要領に基づき精選、分類を行った。その結果、より実態に応じた教育課程の見直しが図られ、あわせて単元題材一覧表や年間指導計画の様式についても整理することができた。 ・単元題材一覧表や単元指導計画は、昨年度に引き続き学習グループごとに作成し、運用することができた。データを一括管理することで、閲覧しやすく保管を適切に行うことができるようになった。今後は、指導計画等を順次整えていくと同時に、引き続き、小・中学部の系統性も踏まえた指導内容の検討や精選を行っていききたい。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習で扱われる各教科等の内容を見直すと共に、単元を整理し、小中の系統的な指導を目指す。 <p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や年間指導計画の見直しをしたことで、各単元・題材の構成を整えることができた。また、より児童の実態に合った教育課程を編成することができた。 ・学習指導研修を通して、その単元・内容でねらうことができる教科について学習指導要領を参考にしながら検討することができた。 ・小中の系統的な指導については、引き続き検討していく必要がある。 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元としてのまとまりができ、単元題材一覧にも分かりやすく記載できるようになったことで、年間の学習の流れを把握しやすくなり、分かりやすい授業の実践につながった。 ・重複障害学級課程 2 の生活単元学習の体育的活動に 	小・中学部	B

	<p>については、教科として行うか、従来通り合わせた指導で行うかを学部内で検討を重ね、次年度からは「保健体育」の教科として行うことになった。それに伴い、来年度の教育課程表を見直すことにした。</p> <p>・小学部との連携については、教育課程別のグループ編成で実施した指導計画を持ち寄り、系統性の確認等の研修を行った。</p>		
2 保護者、各関係機関等との連携	<p>・学校行事の公開ができない場合を想定した動画鑑賞等の計画をPTAの事業計画に盛り込み、スムーズに実施できるようにする。</p>	教務	B
	<p>運動会、わかくさ祭の公開ができない場合を想定して活動委員会の活動計画に動画鑑賞会を設定しておいた。実際には、どちらも公開することができたため、鑑賞会は行わなかった。次年度も同様に準備したい。</p>		
	<p>・各学部、各係が栃木県立リハビリテーションセンターと連携を図り、より良い教育環境を整えられるように連絡・調整を行う。</p>	教務	B
	<p>療育センター生の行事等における準備や手続き等について連絡や依頼などを窓口から行うことで、スムーズに対応できた。</p> <p>療育センター生の入退所等についての予定を早めに教えていただくことで、学校での手続きや準備等に余裕を持って取り組むことができた。</p> <p>新型コロナ関係の連絡を密に行うことができ、早めの対応ができた。</p> <p>今年度は、担当保育士及び担当看護師と本校担任とで面談を行うことができた。日常的に直接会って話すことができない部分については、窓口が入ることで補いながら連携を行うことができた。</p> <p>リハビリについての連携については、本校に来てもらうことはできなかったが、リハビリの見学をすることはできた。</p>		
<p>・各機関との連携において専門性を活かした情報を発信し、支援を必要とする幼児、児童生徒への教育的支援の充実を図る。</p>	相談		
	<p>保育園等訪問支援事業や高等学校巡回相談では、部内で話し合いをしたことで、より適切に支援の手立てを伝えることができた。宇都宮市会計年度任用職員研修2回目の話し合いでは、肢体不自由のある小中学校に在籍する児童生徒の生活面、学習面等に於ける困り感などを知</p>		B

	<p>ることができた。教材や補助的な用具など情報を提供することもできた。各機関との連携を行うことにより、担当者だけでなく部内全体で話し合いを持ち考え、共有することで職員同士の研修にもなった。</p>		
3 安全安心な教育環境の整備	<p>本校の児童生徒の実態により応じた安全教育を展開するために、学校安全計画の見直しを行う。</p> <p>安全計画の見直しに着手し、教科および日生、生活単元学習等との関連性に着目しながら、安全計画の見直しに着手した。今回は安全計画の表記を整え、次年度に学習指導計画との更なる整合性を高めていきたい。</p>	生活	B